令和元年５月２７日
新潟県病害虫防除所

令和元年度

新潟県病害虫発生予察速報第３号

（ナシ黒星病の発生状況と防除対策）

１ 発生状況

（１） ５月下旬の病害虫防除所の巡回調査において、新潟市江南区や加茂市において、新梢葉に発病が認められ､加茂市では幼果の発病も確認された(図１)。５月下旬時点の発病葉率としては、過去10年間において前年に次いで２番目に多い発生である（表１)。

（２） 気象庁５月23日発表、向こう１か月予報によると、降水量は平年並の確率が40％と予想されている。

（３） 今後の気象経過によっては、発病葉や発病果の増加が懸念される。

表１ **ナシ黒星病**の発病状況（定点調査ほ 10 園地）

年次	発病葉率 %									
	5月上旬	5月下旬	6月上旬	6月下旬	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	9月下旬
平成21年	0	0	0	0	0.7	0.2	0.5	0.9	1.4	1.3
平成22年	0	0.2	0.2	0.4	0.7	0	0.9	0.7	2.4	2.4
平成23年	0	0.2	0.2	0.3	0.2	0.7	0.4	0.3	1.4	2.3
平成24年	0	0	1.7	0.6	0.7	0.9	0.9	1.1	2.4	2.1
平成25年	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.1	0.1
平成26年	0	0	0	0.1	0	0.1	0.2	0.6	0	0.6
平成27年	0	0.3	0.2	0.1	0.1	0.4	1.3	1.3	0.7	1.9
平成28年	0	0	0	0	0	0.1	0.4	2.5	0.6	1.3
平成29年	0	0	0.2	0.1	0.2	3.5	3.6	4.6	4.8	4.8
平成30年	0	1.4	1.6	0.8	1.7	1.0	3.5	5.4	2.3	2.5
令和元年	0	0.9								

２ 今後の対応と注意点

（１） 発病した葉、果実は剪除し、土中深く埋める等適切に処分する。

（２） 防除効果を高めるため、薬剤散布は発病部位を除去した後に行う。また、園地周縁部などの薬液のかかりにくい場所は補正散布を行う。

（３） 耐性菌の増加を抑制するため、同一系統薬剤の連用は避け、作用機構の異なる剤を交互使用する。

図１ すす病斑（幼果）と葉でみられるハローを伴う茶褐色の斑点症状